

日野市まちづくりの現況と課題

日野市の概況

- （人口）** 資 1～2
・17.7 万人（2005 年）から 18.6 万人（2015 年）へ増加
・高齢人口は 6.3%増、生産人口は 7.8%減、年少人口比は変わらず。
・市南部の丘陵部は人口減

- （都市基盤）** 資 6～9
・日野バイパスの全線開通など、都市計画道路や区画整理事業等が進行
・ミニバス再編・拡充、ワゴンタクシー導入など公共交通の充実

- （経済動向）** 資 10～11
・就業者数は 5.4 万人（2006 年）から 4.9%減少（2014 年）
・商業・工業・農業いずれも就業者は減少傾向
…イオンモール等の進出。一方で京王ストア等の撤退もあり。
…基幹産業である日野自動車工場移転、東芝・メグミルク等の工場撤退

- （生活支援施設の立地状況）** 資 12～13
・スーパーや診療所、子育て支援施設や介護サービス施設の利用圏域に地域格差がみられる

- （住環境）** 資 14～15
・日野台・万願寺・川辺堀之内等で区画整理が進行
・丘陵部においても依然新規の住宅開発等が進行
・旧市街地や丘陵部の住宅地等で空き家が発生

- （防災）** 資 16
・急傾斜地崩壊危険箇所、浸水想定区域が存在

今後、社会情勢の変化等により顕在化する問題等

- 人口減少社会の到来と急激に進む高齢化

- 人口推計** 資 2～5
・18.1 万人（2015 年）からの増加が 2025 年に減少に転じ、2040 年には 18.1 万人と推計される
・地区別には、市北部で平均 14%の増加、丘陵部を含む南部では 15%の減少
・高齢人口は 30.0%、年少人口は 11.0%、生産年齢人口は 59.1%へ減少
・地域間で世代の偏差があり、生活支援施設（スーパー、子育て支援施設、介護サービス施設等）が不足する地域が発生する

- 都市インフラの一斉更新時期の到来
○老朽化が進む団地の更新 資 17
○生産年齢人口の減少や扶助費増加による自治体財政の硬直化

- 周辺都市との差別化
○女性や若い世代の暮らし方の多様化

- 健康寿命の延伸

- 農地や樹林の減少 資 18

- 安全・安心への関心の高まり

マスタープラン改訂にあたって検討すべき課題

- ◆**将来都市像**
○住宅都市・ベッドタウンに代わる将来都市像の再検討
○暮らしの舞台として選ばれるまちのあり方の検討

- ◆**都市構造**
〈土地利用〉
○高幡不動・豊田・日野駅 3 拠点の位置付け・役割と機能分担
○大規模工場跡地や団地建替え跡地の適切な土地利用
○住工混在市街地の改善

- 〈道路・交通〉**
○今後の都市構造を見据えた都市基盤整備の推進（道路・区画整理）
○丘陵地における移動手段の確保
○公共交通の在り方の検討

- 〈市街地整備〉**
○60～80 年代に整備された住宅地の維持・魅力づくり
○空き家や団地等の空きストックの活用（再生・転用）

- 〈都市機能〉**
○全市的に必要な都市機能の誘導（拠点的商业・医療福祉等）
○生活支援施設の適正配置（不便地域でのサービス維持）
○生活拠点の位置付けと計画的誘導
○高齢化が顕著な丘陵部の在り方の検討

- ◆**生活環境**
○**高齢者**の生活環境づくり
・歩きたくなる、歩いて暮らせるまちの在り方
・地域で生き、看取られるまちの在り方
○**子育て世代**の生活環境づくり
・見守り支え合うまちの在り方
・職住近接の実現
○**地域コミュニティ**のあり方
・地域主体の地域マネジメント
・コミュニティ維持のための仕組みづくり

- ◆**産業振興**
○**工業**
・日野自動車跡地の活用
・産業系土地利用の維持、新たな産業立地の誘導
○**農業**
・都市農地・生産緑地の保全と活用
○**観光**
・地域の歴史や文化を活かしたまちづくり

- ◆**自然環境・歴史・文化**
・農地・緑地、河川等の特性を継承したまちづくり
・地形や自然資源を活かした新たな魅力づくり

- ◆**防災**
・災害に強い地域づくり
・安全に安心して暮らせる地域づくり

改訂方針

改訂方針

- 現行計画に基づくまちづくりの成果を評価し、今後対応すべき課題を反映した計画とする。
- 計画の構成については現行のマスタープランを基本とするが、社会情勢の変化等を踏まえ、新たに目指すべき都市像を設定し、その実現に向けた方策を整理する。

(1) 現状及び今後のまちづくりの課題への対応

- | ＜新たな都市像を考える上で必要な視点＞ | ＜まちづくりの方向性＞ |
|------------------------|---|
| ○持続可能な地域づくり | ：人口構造バランスのとれた地域へ |
| ○暮らしながら働ける地域づくり | ：職住近接、ライフスタイルに応じた働き方ができる地域へ
：産業立地の促進、地域の人材を活用した都市型産業の創出 |
| ○歩きたくなるまち、歩いて暮らせるまちづくり | ：便利で暮らしやすい生活圏の形成
：暮らしを支える公共交通網の形成
：暮らしの中で健康になるまちの形成、自然に触れて歩く機会の創出 |
| ○地域で生き看取られるまちづくり | ：住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり
：支えあえるコミュニティづくり |
| ○安全・安心なまちづくり | ：過去に類のない災害などへの対応
：安心して暮らせるまちの形成 |

(2) 日野市の都市像を再定義

『日野市に暮らす価値を高める』

(3) 『立地適正化計画』と同時に策定し

まちづくり施策を場所と対象に具体性を持って記載

(4) マスタープランの地域区分を中学校区に変更

（地域別懇談会など地域コミュニティの単位と統一）